

第54回技能五輪全国大会を振り返って

全管連理事・技術委員長
配管職種競技主査 松本 正美



競技主査として挨拶



公開水圧審査の実施

今年の技能五輪全国大会は紅葉が見ごろとなった山形県の「さくらんぼの里」寒河江市で開催されました。国内の全ブロックから58名の若者が参加して活気あふれる大会となりました。地元の山形県、次回開催県の栃木県から各10名の参加を得て例年になく人数となり、当初に予定していた会場を変更せざるを得ない状況になりました。このことはうれしい悲鳴でした。管工事業界の将来を担う選手の皆さんの体格も立派で大変頼もしく思いました。

今大会は、課題の一部にポリブテン管を採用しました。これは木造住宅などの給水給湯管に多く使用されているものです。その他の管は例年と同様ですが公表課題と当日課題が左右反転していたため

手間が増えたかと思えます。未完成者は8名（13.8%）でした。

昨年、「技能競技大会を活用した人材育成の取り組みマニュアル」や「若年者のための建築配管基本実技シート」が刊行されたためか、銅管の曲げ加工やハンダ付けの技能は格段に上手になっています。しかし、図面をよく読み取っていないのか、銅管の末端に取り付ける仕切り弁の位置が違うものが多く見受けられました。このために、材料の再支給を希望する者が多く（11名）いました。

洗面器のバックハンガー取付用の木ねじとワッシャーの使用部位の間違いが多々ありました。メーカーの説明書などをよく読んでおくことも大事なことです。器具の取付は配管の精度が出ていれ

ば現場においても見栄えよくできるものです。

排水管の部分は、口径が大きいいためか、精度を調整するためか、継手の差し込みが不足している作品が複数ありました。全く接着をしていないものもありました。所属先が同じ2名の選手でしたが、未接着はいかがなものでしょうか。当然ですがこの確認は寸法精度測定後に行っています。

課題図ばかりでなく、公表されている競技実施要領やその中の採点要領などをよく読むことも大事なことです。

工具を必要以上に持参しているように見受けられました。工具一覧表に記載があっても不要なものは持ち込む必要はありません。また、同じ工具を数多く持参している選手が多々いました。必要な工具を厳選して欲しいものです。

若年者は練習を重ねるほど上手になると思いますが、材料費や時間の制約もあり思うようにはいかないと思います。反復練習は大事なことですが質の高い方法を考えたいものです。企業では撤去した古い管材を使用して練習できますが学校では古材の入手が難しいと思います。

私は「ていねいな仕事」を希望することを挨拶の中で、選手の皆さんに伝えました。ていねいな仕事を行えば時間がかかります。必然的に「あせり」が生じます。また、競技委員や見学者も多くいます。このプレッシャーを克服することが自分

との戦いになります。創意工夫を重ねて練習し、この重圧に負けない精神力をも身につけて欲しいものです。それだけに指導者のアドバイスは重要なものと考えています。

日本においては技術革新が進み新しい素材を使った材料、工法が次々に開発されています。これらは、比較的簡単に加工や接合ができます。現課題は伝統工法を用いた課題になっています。現代の若者は銅管の接合や手動のねじ切りなどは経験していないのではないのでしょうか。基本的な作業ができることは新材料にとって代わられてもスムーズに馴染んでいけるものと確信しています。

今大会は山形県や寒河江市のご協力により素晴らしい会場で開催できました。また、山形県管工事業協同組合連合会、（一社）山形県空調衛生工事業協会の皆様のご尽力により無事に終了できましたことに厚く御礼申し上げると共に感謝申し上げます。この大会に出場した選手の皆さんが1級技能士となり、技能グランプリで再会できることを楽しみにしております。

参考 技能競技大会を活用した人材育成の取組マニュアル（配管職種編）
—中央職業能力開発協会—
若年者のための建築配管施工基本シート（指導者編・受講者編）
—全国管工事業協同組合連合会—